



緊急情報 「胴割れ粒」の発生防止対策

胴割れ粒の発生しやすい条件 ~ 本年は発生しやすい条件が揃う

完熟粒内の急激な水分変化により米粒内部の圧力に不均衡が生じひずみで亀裂が入り胴割れ粒となります。以下の条件で発生が助長されます。

① 収穫後の急激な乾燥

② 成熟期を過ぎて米粒水分が低下した状態での降雨

本年は成熟期頃から頻繁に降雨があり、収穫が思うように進まず、完熟粒は降雨による膨張と降雨後の高温による乾燥・収縮を繰り返しており、胴割れが発生しやすい天候が続いている。

③ 穂揃いが悪い

高温だった割に本年は穂揃いが悪く登熟ムラが大きい。早く完熟した粒ほど水分は低く、水分変化による「ひずみ」が生じやすい。

④ 登熟初期の気温が高い

農研機構から出穂後10日間の日最高気温が高いほど胴割れが増えるとの報告が出されている。本年当地域は7/28以降高温となり特に8/1~8/7は連日真夏日が続くなど、かつてない高温だったため、亀裂の入りやすい米質となった可能性がある。

胴割れ粒の防止・軽減に向けて

① 刈り遅れさせない

収穫適期を過ぎると籾水分が低下し、急激に胴割れ粒が発生しやすくなる。既に枝梗も傷んできておりこれ以上の登熟は望めないため、成熟の進んだものから早々に刈り取る。

② コンバインのこぎ胴の回転数を適正に

脱穀時の衝撃も発生要因となるので既定の回転数以上にしない。

③ 濡れた籾や高水分の籾は、張り込み後通風乾燥で

最初は火を入れず常温通風乾燥を行った後で本格的な乾燥作業を。

④ 送風温度・乾減率を適正に

水分**25%以上**の間は送風温度は**35℃程度**で。その後は逐次温度を上げるが毎時乾減率は0.8%以下とする。

⑤ 胴割れを指摘された・籾水分が20%以下の場合

送風温度を通常より5~10℃程度低めに設定し毎時乾減率を0.5%程度とする。乾燥機の自動運転は過信せずこまめに確認する。